

翻訳にあたってのヒント

その 53

色にちなんだいろいろな英語

第 10 回 (このシリーズ最終回)

「金、Gold」と「銀、Silver」＋ 色にまつわる生活表現や形容詞

● 「最高の、一番の、高価な、貴重な、美しい、純真な」といった意味がある英語の「gold」には、「不朽不滅、純粹、豊饒、高貴」といったプラスイメージがあり、次のような言い方がある。

■ heart of gold (黄金のように) 美しい心 :

Her daughter has a heart of gold. 彼女の娘は心の美しい子である。

■ (as) good as gold 全幅の信頼がおける、十分信頼できる、とても (非常に) 良い :

「金と同じように価値がある」からそういった意味で使われる語。イギリスでは「(子供が) おとなしくしている、行儀良くしている、お利口さんにしている」という意味を表すこともあるようだ。

■ Silence is golden. 沈黙は金 (Speech is silver, silence is gold. 「雄弁は銀、沈黙は金」) :

沈黙は雄弁にまさるとして、沈黙の価値の至高性を表した警句。寡黙な人ほどまじめで実行するのも改めるのも早いということがあがるが、多弁家はなかなか実行が伴わず自分の過ちを正当化しようとしてあれこれと言ひわけに走りがちだということがある。「言わぬが花」ということわざもあるように、言葉数が少ないほどよい場合がある。

■ All is not gold that glitters. = All that glitters is not gold. 光るもの必ずしも金ならず :

「見掛けは当てにならない」を暗示することわざ。表面が立派に見えても、中身は必ずしもよくないことがある。人は見かけによらぬもの。

■ The balance distinguishes not between gold and lead. 天びんは金も鉛も区別しない :

人がこの世に生を受け生きていくという原点からすれば、我々に身分の区別はなくみな同じ生きる権利をもっているということになるろう。

■ The golden mean is best. 黄金の中庸は最善 :

節度の限界を越えると、命取りになるという戒め。

■ Kill not the goose that lays the golden eggs. 金の卵を生むガチョウを殺すな :

すでに得ている利益以上を望むと何も得ることができないという貪欲への訓辞。(一日一個の金の卵以上を望んでガチョウの腹を割き元も子も失ったというイソップ物語から。)

■ golden ...

[1] (金のように) 貴重な、すぐれた、絶好の、すばらしい、非常に幸運な、みごとな:

golden opinions すぐれた意見

miss a golden opportunity 絶好の機会をのがす.

[2] 全盛の、繁栄した、活力にあふれた、とても楽しい:

golden years 全盛時代、(遠回しに) 老齡期

golden hours またとなく楽しい時間

● 「銀」を示す英語の「silver」は「純潔、雄弁」といったイメージを持っているようである。Gold は黄金色を呈するが、銀は美しくつややかな青白い色を放つ。白銀(しろがね)ともいわれるが、白金のほうはプラチナを指す。銀には、金よりも軽くて堅く、その展性・延性にいたっては金に次ぐという特性がある。これとは直接関係ないが、例えば、最近では「ナノシルバー、nano silver」という微粒子状態の銀が殺菌に使われていることなどがあげられる(金属を微粒子状にすると表面積が大きくなって反応が活発になり通常の状態とは別の特性を持つようになることがあり、銀の場合には殺菌力がつくという)。ちなみに、「銀製品」のことを「silverware」といったり、chinaware「陶磁器」、glassware「ガラス製品」、tableware「食器」、コンピュータの hardware「ハードウェア」や software「ソフトウェア」などに使われていたりする接尾語である「-ware」は「品」や「器」の意味。

■ be born with a silver spoon in one's mouth 良家に生まれる、富貴の家に生まれる、金持ちの家に生まれる、良い星の下に生まれる:

昔、西洋で子どもの洗礼式の際、教父や名付け親から銀のスプーンを贈られる習慣が経済的に恵まれた人々の間にあったことに由来。

■ silver-tongued 雄弁な、口のうまい、弁の立つ:

silver-tongued orator は、「雄弁家、弁の立つ人、口のうまい人」を表す。

■ Every cloud has a silver lining. どの雲にも銀の裏地がついている:

「待てば海路の日和あり」「苦あれば楽あり」「苦は楽の種」「禍福は糾える縄の如し」ということわざにもあるように、不幸(逆境)と幸福(順境)は巡り巡ってくるものである。

「どんな逆境にもよい側面がある」「どんなに悪いことにも、その反面には必ず良いことがある」という道理を不幸な境遇にある者に言い聞かせることわざ。

◆豆知識

人間の喜怒哀楽は体液の仕業だという説をヒポクラテスは唱えていた。その説によれば、人体には、blood「血液(赤) = 興奮や情熱」、choler「胆汁(黄) = 癩癩や短気」、melancholy「黒胆汁(黒) = 憂鬱や哀愁」、phlegm「粘液(緑) = 冷静や無気力」の四つの体液が流れておりその配合次第で気質が怒りっぽくなったり陽気になったりするのだという。choler「胆汁」と color「色」の綴りも似通っており、2つの単語は親戚関係にあると言われている。

る。そして gall「胆のう」は黄色い液体を分泌することから、gold「金色」や yellow「黄色」が基になってできあがった単語だそうである。

色を用いた生活英語表現：

- ◆ I am talking about rivers, not canals. 私は河川について話しているのであって、運河についてではありません。Canals are a horse of another color. 運河は別のものです。
- ◆ The joke you told was really off-color. It embarrassed everyone at the party. あなたのジョークは本当に下品なものだったので、パーティに居合わせた人たちは当惑してしまった。
- ◆ I want to see the color of your money before we go to that expensive restaurant. あの高価なレストランに行く前に、きみがお金を持っているかどうか知りたいものだ。
- ◆ He never shows his true colors. 彼は自分の本心を出さない。
- ◆ She passed her math test with flying colors. 彼女は数学のテストに簡単に（見事に・堂々と・立派に・優秀な成績で）合格した。（※ flying colors には元々「勝利の合図の旗、大勝利、大成功」の意味があり、こうした意味が派生した。）

● 色の形容詞：

[きれいな色]

「美しいな～」という意味では、「beautiful ...や nice ...」などが使われる。他には「pretty ...や lovely ...」などもこれに当たる（ただし男性は使わない）。「色彩豊かな～」は「colorful ...」であり、「清潔な～」の意味では「clean ...や pure ...（混じりつけなし）」、「澄んだ～」という意味では「clear ...、limpid ...」が適切。

[明るい色]

「薄い～」という意味では「light (pale) ...」であり、「鮮やかな～、はっきりした～」は「bright ...、vivid ...」で表す。「陽気な～」という意味では「cheerful ...」があり、これは通常 yellow, orange, green, red などが入った色を指す。また、「日の光のような～」という意味で「sunny ...」がよく用いられる。

[派手な色]

この色は「loud ...」によって表現される。しかしこの場合、insulting の意味を持つこともある。つまり「派手すぎる」ということ。また「華麗な～、豪華な～」は「gorgeous ...」を使う。

[強い色]

「色彩の強い～」という意味で使われた場合、「rich ...」が適切。また「非常に目につく」という使い方では、「vivid ...」がある。

[地味な色・渋い色]

この色を「くすんだ～」ととらえるならば「sober ...」が適切であり、「強さを和らげて

いるような～」と理解するならば「subdued ...」である。「quiet ...」も使用不可能ではないが、a quiet dress（地味な服）などに使ったほうが適切である。またそれほど一般的ではないが、「tasteful ...（洗練された～、上品な～）」ということもできる。

[濃い色・暗い色]

このふたつは同じ形容詞で表現できる。一般的なものは「deep ...や dark ...」である。とくに、blue, red, green, brown などに使用される。例えば、「濃い青」は deep blue という。「暗い緑」は dark green である。

[薄い色]

「light ...もしくは pale ...」が適切。また「淡い～」という意味で使う場合には「faint ...」が可能で、faint pink のように言う。

[濁った色]

この色を適切に表現するのは、「muddy ...もしくは cloudy ...」である。しかし、muddy は dirty の意味に使われることがあるので注意が必要だ。Cloudy は、gray を形容する。

[ぼんやりした色]

この色を表現するのに適切なものは、「watery ...」。ぼやけた感を表現している水彩画を想像するとよい。

これにて、いろいろな色の英語シリーズはおしまい。

以上で第 53 回目終わり。